



## 代表取締役 **岸上 幸司**

和歌山県・由良町出身。飲食業界での経験を経て、ワーキングホリデーでオーストラリアへ。帰国後は再び飲食業界で経験を積み、紆余曲折を乗り越えて、アンティーク品を扱う『HAPPY ARROW』を設立する。



# HAPPY ARROW

**HAPPY ARROW 株式会社**  
兵庫県明石市二見町西二見駅前 3-93 番地

紆余曲折を経て独立を果たした岸上社長。その道のりは決して平坦ではなかったが、様々な人との出会いを経て、困難を乗り越えてきた。そんな社長から、興味深いエピソードを伺った。

ある時、奥様から先祖供養してほしいと言われ、実際に行ったところ、なんと奥様にお父様が乗り移ったのだという。父子でしか知り得ないことを話し、今の社長の姿を見て喜んでくれているように感じられたのだとか。

さらに、祖霊碑を建てた際にはお布施を30万円納めたのだそうだが、翌日仕事で請けた依頼の報酬は30万円。さらに依頼主は社長と同名同姓の「岸上幸司」氏からだったという。

それから社長は、毎日仏壇に手を合わせて、祖先に感謝を伝えるようになった。不思議な話ではあるが、社長のこれまでの道のりを踏まえると、社長を思い、守る温かな力が働いているのかもしれない。そんな風に思えるエピソードだった。

## 竹原 慎二

「対談では思わず驚いてしまうようなエピソードを多く語って下さった岸上社長。それを『偶然だ』と片づけてしまうこともできたかもしれませんが、社長の言葉はすんなり受け入れることができ、『社長が言うならそうなのだろう』と自然に思えました。そんな不思議な魅力を、社長はお持ちだと思います。これから社長がどのような躍進を見せてくれるのか、楽しみですですね！」



# 不思議な巡り合わせを信じて 歩み続けた半生を、今振り返る

アンティーク品や骨董品の販売・買取・輸出貿易を手掛ける『HAPPY ARROW』。岸上社長が立ち上げ、着実に成長し続けている会社だ。一見順風満帆な様子に見えるが、その道のりは決して平坦なものではなく、様々な出会い、経験を経て、現在に至ったのだという。本日は、そんな社長のもとを竹原慎二氏が訪問。紆余曲折に満ちた社長の半生を伺った。

## 飲食業界での経験を経て

### オーストラリアで4年間を過ごす

——早速ですが、岸上社長の歩みから。

和歌山県・由良町出身です。9歳の時に父が他界したため、母が女手一つで育ててくれたのですが、学生時代はとにかくやんちゃで（笑）。高校生の時は、就職活動の時期に無期停学処分となり、就職ができそうにないくらいでした。そんな時、担任の先生のご友人が大手飲食チェーンの社長をしており、「やんちゃな人材が一人欲しい」と声をかけられたそう。「お前がぴったりだ」と白羽の矢が立ったのが私でした。それで、7年半ほどそちらにお世話になったのです。

——余程、担任の手を焼いていたのでしょうか（笑）。その後はどうされたのですか。

もともと海外に行ってみたく思っていたので、スキューバダイビングの資格を取るために、ワーキングホリデー制度を利用してオーストラリアに渡りました。規定では1年間なのですが、もっとここで経験をしたいと思い、そのまま滞在することにしました。それで、飲食店勤務の経験を活かして働こうと、あるレストランの面接に行ったところ、非常に気に入っていただけまして。滞在費用

も負担していただき、最終的には4年ほどオーストラリアで過ごしてから帰国しました。

## 紆余曲折を経験するも

### 困難を乗り越えて独立を果たす

——貴重な経験をされましたね。帰国後も飲食業に？

ええ。縁あって、広島県で飲食関係の会社に入社しました。そこで仲間たちと、バーなどの店舗展開に尽力していたのですが、ある日突然社長が雲隠れしてしまって……。そこで、会社のお金の使い込みが発覚し、私たちには多額の借金だけが残されました。

——それは大変だ！ せっかく頑張っていたのに……。

それはもう、どん底に叩き落とされた思いでした。途方に暮れて、広島県で有名な占い師のもとを訪ねて、相談したのです。するとその方は、何も言わずとも私の過去をしっかりと言い当てた上で、「古物を扱う仕事をしなさい」「貴方は日が沈む方向に向かうと運気が下がる」とおっしゃられて。最初は古物の意味すら分かりませんでした（笑）。それで、よく軽トラックで不用品回収をして回っている業者さんに話を聞いて、そこで雇っていただくことになったのです。

——すごい行動力ですね！

もう、必死でした。でも、その占い師さんとの出会いのお陰で、大きく人生が変わりましたね。半年ほどお世話になったところ、占い師さんのアドバイスを信じて、広島より東で仕事をしようと考えまして。社長に、「関西で支店を出さないか」と打診したところ、「岸上君がやるなら」と快諾して下さり、兵庫県明石市で不用品の回収業をスタートしたのです。当時は他に同業者がいなかったためか、とてもご好評いただきまして。当初は試し

に3日間だけやってみようという話だったのですが、あまりの好評ぶりに社長が広島から飛んで来るくらいでした（笑）。そうして支店長として明石市で働くようになり、5年ほど経ったころ、東南アジアへの輸出貿易をスタートさせようと考えました。というのも、新婚旅行で8カ月かけてアジアを一周した時に、日本製品の評価が非常に高いことを知りまして。これは良いビジネスになると思っていたのです。そうして、アンティーク品を扱う『HAPPY ARROW』の設立に至りました。

——波乱万丈な道のりでしたが、今としても充実していらっしゃるようにお見受けします。

あの占い師さんと出会って、人生が180度変わりました。独立後もしばらくは毎年足を運び、占ってもらっていたのです。良いことも悪いことも包み隠さず伝えてくれるので、悪いことはしっかりと心に留めるようにしていました。お陰様で、宣伝などはしていませんが、順調に業績は伸びています。

私はもう48歳になりましたが、子どもが6人おりまして、一番下がまだ4歳なので、まだまだのんびりはできませんが（笑）、子どもたちに何を残してあげられるかを今考えているところです。家族皆でお好み焼き屋をするのも良いかなと思っていますね。そうして皆で、笑顔で過ごしていきたいです。

（取材／2020年2月）

